

令和6年度 金属プレス研修塾 開塾式

日 時：令和6年9月20日（金）
場 所：1部 たかつガーデン「鈴蘭」 2部 杯杯天山閣
内 容：1部 開塾式、塾生名刺交換、塾生自己紹介、関係者挨拶、塾生挨拶号令の練習など
開塾式講話 講師：濱田恵氏（濱田プレス工業株式会社 社長）
2部 塾生交流会（食事会）
参 加 者：25名（うち塾生18名） 塾生交流会参加者：26名（うち塾生17名）

『金属プレス研修塾』は昨年度に1期生を募集して1年間の活動を終えました。そしていよいよ2期生がスタートしました。今回は2期生の開塾式です。

昨年度1期生はコロナ明けということもあり塾生は15名に制限しましたが、今年の2期生は塾生18名でスタートします。昨年と同じ企業からの塾生もいますが、7社（8名）は今年から参加して頂いた企業です。

第2期生塾生リーダーは田中康治氏（株ハヤシ）に務めて頂きます。はじめに田中リーダーの挨拶があり次に塾生同士で名刺交換、そして塾生が一人ずつ登壇して自己紹介をして頂きました。



田中康治 塾生リーダーから進行の説明など



塾生同士の名刺交換



塾生の自己紹介

自己紹介の後は、塾生リーダーの掛け声で「号令」の練習をしました。これから1年間、各見学・研修先で規律正しく挨拶をする必要があるからです。

塾生による「号令」の練習が終わり、林秀昭会長の開塾式ご挨拶がありました。大変良いイベントなので1年間学んで塾生同士の交流も深めて下さいとのことでした。

次に朝田武志副会長兼安全技術委員長のお話がありました。研修塾の年間スケジュールと研修塾の意義の説明などがありました。



塾生 号令（起立、礼、直れ、着席）の練習

濱田恵社長 開塾式 講話

開塾式のメインとして講演会を開催致しました。講師は濱田プレス工藝株式会社の濱田恵社長にお願いしました。濱田社長は1年前の開講（塾）式にもご講話して頂いております。

以下に今回の講話の内容を抜粋して記述します。

濱田プレス工藝は深絞り加工を専門とする会社です。板厚 2.2~2.6mm くらいの絞り製品をクボタの建設機械や農業機械、川崎重工のオートバイのフェンダーやガソリタンクを製作しています。

しかし数年前にプレスだけでなく他の柱となるものが必要と新しい分野に取り組みました。東芝が白熱電球の製造を止めるという報道を見てLED防犯灯の製造を始めました。苦労しましたが現在は約3万本の防犯灯を納入しました。防犯灯の他、LED天井照明器具は4分割で角度調整が出来る製品とし、工場やスポーツ施設などに納入しています。

デジタルサイネージ（電子看板）はカーブ（曲線）が特徴です。駅や空港、デパートのショーウィンドに納入しています。液晶は海外から仕入れますが筐体設計製作から電気配線、設置、パソコンへの接続と試運転確認まで自社で行ない他社と差別化していることが強みです。

ドライブレコーダーは煽り運転の悲しいニュースを見て開発に踏み切りました。全く新しい分野で自社の技術だけでは難しいと判断して協力会社を探し、またJAF（日本自動車連盟）に交渉をして、高品質で低価格が実現するならと注文の確約を取り付け、1年で製品にするために毎月打ち合わせを行ない、熱意をもって交渉を重ねて高品質で他社より価格を抑えた製品を作り上げてJAFへ納入しています。

電子黒板は全国の小中学校に納入を続けています。今ではトヨタ自動車のEV組立ラインにも導入されています。トレインシュミレーター（車掌さんの訓練用）はJR東日本から依頼がありました。ドイツの展示会に出展した様子がTV「情熱大陸」で放送され、それを見た新幹線やJR九州からも引き合いがありました。宅配ロッカーはコロナで必要と感じて製作をはじめ最近では郵便ポストと宅配ロッカーが一体となった製品をマンションなどに納入しています。

関西電力向けに光子局の盤も製造しています。電柱に取り付け、遠隔から光通信で高圧送電線の監視および開閉器を制御する装置で、錆びと水漏れが厳禁です。現時点で8千台以上納入しています。

2022年7月に竣工された名張工場のご紹介もありました。全自動化された塗装工場です。2023年5月にはR&D キュービック京都を稼働しました。3階のクリーンルームでは有機半導体の開発に東京大学と共同で取り組んでいます。きっかけは銀座三越のショーウィンドに設置した巨大デジタルサイネージでした。濱田プレス工藝に「一緒にやりましょう」と声がかかったそうです。そして東京大学大学院新領域創成研究科を誘致し、有機半導体の量産化・実用化に向けて共同研究を進めており軽量でフレキシブルなサイネージを目指しています。先日は有機実装機を3台導入して稼働を開始しました。「半導体は産業の米」と位置付け、若い人たちが日夜開発に取り組んでいます。更に次は太陽電池用モジュールへの参入も検討しています。従来のシリコン太陽電池とは違い、軽量で曲がる次世代の太陽電池です。

濱田社長は製品開発だけでなく人材育成にも力を入れ、ベトナムへ出向いて実習生を採用したり、社内では勉強会を実施して5名の電気工事士を育成しました。他にも中間管理職向けに品質教育や外国人実習生への日本語勉強会も実施しています。

講演を通じて濱田社長が若い塾生の皆さんに訴えたいこと、そして塾生が一番印象に残ったことは、「成功するまであきらめない、途中でやめるから失敗になる」という言葉です。成功するまで何十年でも続け決して諦めない。成功するまで突き詰めていく。濱田社長のその視野の広さと決断力と粘り強さに塾生は感銘を受けたことでしょう。



濱田プレス工藝 濱田社長の講話

塾 生 交 流 会

金属プレス研修塾の第2期生がスタートしました。

開塾式を終え 場所を杯杯天山閣（中華料理）に移動して塾生の交流会を開催しました。

2期生の塾生は18名です。（うち女性は2名）、これから1年間は見学・研修で共に学んでいく仲間です。美味しい食事とお酒で大いに交流を深めて頂きました。



塾生交流会の様子



塾生交流会の様子



塾生交流会の様子



1期の塾生リーダー（朝田善雅氏、右）から
2期の塾生リーダー（田中康治氏、左）へ
引継ぎ

次回の金属プレス研修塾は11月15日（金）に鉄鋼材料の製造工程の研修として、株式会社神戸製鋼所加古川製鉄所を訪問見学して鉄鋼材料の製造について学ぶ予定です。